

	号外	定価 1部 2円	一戸町議会議選 (11/10 投開票) 峠 勇夫さんを推 薦決定！知人へ の声かけを！
	昭和34年4月1日 第3種郵便物認可	発行所 盛岡市内丸10番1号 岩手県庁内	

13 確定闘争情報 - ⑦

現業評議会 主管課交渉

現業退職者の完全補充を！

現業評議会（議長：遠藤哲美・管財課分会）は10月30日、現業退職者の完全補充を求め、管財課、農林水産企画室、県土整備企画室との主管課交渉を行った。

今年度末での定年退職者が所属する、管財課（宮総括課長）、県土整備企画室（小笠原管理課長）との交渉では、いずれからも「現業職員の必要性」と「再任用への本人希望の尊重」の考えを引き出した。また、昨年度末の退職者について4月からの補充ができていない畜産研究所（鶏舎）の技能員については、「知識や経験も必要な職種であり、臨時職員では対応できない。総務部に補充するよう申し入れている」との及川農林水産企画室管理課長の回答を引き出した。（各交渉の経過は下記のとおり）

それぞれの主管課から、現業職員の必要性を確認したことを踏まえ、現業評議会は8日に人事課交渉を行い、退職者の「完全補充」の回答を引き出していく。

現場の要望は理解する 人事課へ伝える 管財課

《現業評》今年度末退職の運転技士について、本人の再任用希望を優先の上、補充すること。

【宮 課長】運転技士は退職不補充が基本だが、再任用への本人希望は尊重すべきと考えている。

《現業評》不補充の考えは、人事当局の指導か、それとも管財課の考えか？

【宮 課長】本県の地理的要件や震災後の大変厳しい状況も理解しており、運転技士の必要性については認識している。

《現業評》公用車集中管理が始まった2001年には24人いた運転技士が、今は18人。復興業務での沿岸往復や、最近では災害査定など、総動員されているのが現状。人員は足りていない。たとえ再任用希望がなくとも運転技士を補充するよう、人事課に現場の声を上げろ。

【宮 課長】現場の要望は理解する。人事課へ伝える。



補充するよう総務部に申し入れている 農林水産企画室

《現業評》今年度、欠員状態の畜産研究所の技能員の採用予定は？

【及川課長】臨時職員での置き換えではうまくいかない。知識や経験が必要な職種であり、総務部に補充するよう申し入れているところ。私としても期待している。

《現業評》現在、正職員2人と臨時職員の体制だが、生き物を扱う仕事のため土日のどちらかは必ず出勤しなければならない。家族や子どもの行事などにも行けない現状がある。



【及川課長】2人には苦勞をかけている。土日出勤の代替休日の関係で平日も2人が一緒になる日が少なく、引き継ぎ等も難しい現状があると聞いている。

《現業評》ぜひ、採用が実現するようお願いしたい。

【及川課長】鶏舎の補充は、最重要課題だと考えている。

定数減ることのないようにと考えている 県土整備企画室

《現業評》今年度末に退職する盛岡土木と久慈土木の運転技士について、補充の考えを伺う。

【小笠原課長】土木の運転技士は、運転業務だけでなく重機の管理も担当している。また、技術職員が、運転技士から現場の様子を教えてもらうこともあり、地元精通した職員としても重要だ。定数が減ることのないようにと考えている。本人の再任用希望があれば尊重して考えていきたい。

《現業評》沿岸職場は、一般職は増えているが運転技士は臨職対応だ。体制強化の考えは。

【小笠原課長】必要な所に必要な人員を！という考え方について一般職と現業職を分けるつもりはない。大船渡は2007年から1人体制になっている。全体の定数の考え方など、当部だけで判断できない部分もあるが、現場の声は人事課に伝えていく。



《現業評》運転技士は今後も直営で確保されたい。

【小笠原課長】守秘義務の確保や機動性の問題など、委託になじむものではないとの考えはある。

全分会連鎖要求書

職場の一言要求行動

取り組みます 11/6~12日

県職労は、労働条件改善に向けて、各現場（分会）からの喫緊かつ率直な要求を、全分会取りまとめて当局に提出します。これは、1枚の要求書に、分会単位での要求を記載し、次の分会へとリレー（連鎖）させていくことで、交渉での要求実現を図るとともに、支部・分会における活動促進と組織強化につなげようとするものです。取りまとめた「全分会連鎖要求書」は、15日に当局へ提出する予定です。全ての分会から、率直な職場要求を届けていこう！